

媒体名	日本流通産業新聞	掲載日	2012年6月28日号
タイトル	「注目技術 ニュートリション・アクト」EX-VIVO試験」		

ニュートリション・アクト「EX-VIVO試験」

ヒト皮膚組織片を使用し試験

訴求力高い実践的エビデンス取得方法

注目技術

ヒトの皮膚に対する化粧品・健康食品の効果を測定する新たなエビデンス取得方法として、生きたヒトの皮膚組織片を用いる「EX-VIVO試験」が注目を集めている。同試験は、フランスに本社を置くバイオエシラポラトリー社が提供しており、国内では、化粧品・健康食品の素材供給・OEM事業などを行うニュートリション・アクト（本社東京、石川雅仁CEO、☎03-5475-7313）が日本の窓口として提案している。

人工的な3D皮膚モデルなどとは異なり、生きたヒトの皮膚組織片を使うため、化粧品や健康食品の肌への影響を、実際の肌と限りなく近い環境で評価できる。同試験は、欧米やアジア圏を含め世界中で利用が進んでおり、大手を含む100社以上の導入実績があるが、日本ではまだなじみが薄い。

特殊培地により皮膚組織片を生きたまま長時間維持させ、試験を行う。抗シワ製品評価（コラーゲン量、抗コラーゲンゼ活性など）、美白機能評価（メラノサイト変化、メラニン生成量、チロシナーゼ活性など）、サンスクリーン製品評価（日焼け細胞数、DNA損傷、抗フリーラジカル活性など）、保湿効果（角質層の構造、皮膚保湿成分、アクアポリンなど）、毛髪・頭髮への効果といった、さまざまな試験を実施できる。特定の

実際に同社の独自素材であるAC-11について肌への影響を調べた試験では①UV照射によるDNA損傷を修復する効果を持つ②柔軟で弾力のあるⅢ型コラーゲンの量が10日間でスタート時より約4・7倍に増加する③Ⅲ型コラーゲンやDNA損傷細胞を染色した視覚的データや、それらを数値化したグラフデータなどを武器に同素材の営業を強化したところ、「AC-11の取り扱い企業が大幅に増えた」（同社）実績もある。

訴求力の高い実践的エビデンスの取得方法として、業界の注目をますます集めそうだ。